

鶴崎地域まちづくりビジョン フォローアップ会議 通信

第1号

発行: 令和元年11月15日 鶴崎地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

『地域まちづくりビジョン』とは

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取組をまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、昨年7月に市長に提言されました。

○鶴崎地域の将来像・・・『みんなが住みたくなる伝統と文化のある街』

○将来像実現に向けた提言

提言1：鶴崎の伝統・文化を「まもり」「つなげる」「いかす」

- ・鶴崎地域にしかない伝統と文化を守り、次の世代へつなげ、観光資源などに生かす取組を行うことで地域の活性化を図るべきです

【提案事業】：①豊かな歴史と伝統文化の継承 ②史実の顕彰による観光連携の強化
③地域イベントの拡大事業 ④鶴崎地域の農業の振興

提言2：豊かな川の恵みをみつめなおす

- ・鶴崎地域を流れる一級河川である大野川と乙津川の恵みを生かした取組を行うことで特色ある街づくりを行うべきです

【提案事業】：①大野川、乙津川の河川敷を利用したスポーツ施設整備とマラソン大会の実施
②川を活かした街づくり事業
③防災と豊かな川を活かした街づくり

提言3：鶴崎駅や鶴崎市民行政センター周辺を核とした街のにぎわいづくり

- ・鶴崎駅を起点とした鶴崎地域の南北を結ぶ交通網の整備や地域コミュニティ機能、防災機能を充実させるために公民館を整備するなど、住民生活の利便性を向上させ、さらに地域外から人が集まる街を作ることで鶴崎地域全体の活性化を図るべきです

【提案事業】：①鶴崎駅周辺の整備 ②鶴崎市民行政センター周辺の整備

提言4：将来住みたくなる街づくりに向けた取組を推進

- ・鶴崎地域の未来を担う子どもたちが将来もこの鶴崎に住みたくなるような街を作るために、教育環境の充実や地域の防災力を強化する取組などを行うべきです

【提案事業】：①地域全体の防災力の強化 ②鶴崎地域の学力向上、地域間交流
③空き家、空き地を活かした地域コミュニティ活動の推進
④高田校区に多目的グラウンドの整備 ⑤将来住みたくなる街づくり

『フォローアップ会議』とは

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、進捗状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。



地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗状況

会議では、各事業の取組状況を報告し、これをもとに意見交換を行いました。本通信では、そのうち主な事業等について以下に掲載しました。これからも鶴崎地域がさらに魅力ある街となるよう、地域の皆さんと行政が協力しながら各事業の取組を進めていきます。

【フォローアップ会議を開催しました】
日時：令和元年8月29日（木）9時30分～
場所：鶴崎市民行政センター 2階大会議室
議事
（1）会議の公開について
（2）地域まちづくりビジョンについて
（3）地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
（4）地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
（5）意見交換
（6）今後の予定について



【 提言1：鶴崎の伝統・文化を「まもり」「つなげる」「いかす」 】

（事業名）豊かな歴史と伝統文化の継承

- ・「鶴崎踊」「三佐の山車」「けんか祭り」などの伝統や文化を継承する
- ・伝統文化継承の拠点となる鶴崎公民館を整備する
- ・地域の子どもが伝統文化とふれあう取組を行う

【 事業の取組状況 】

（地域）・鶴崎小学校で毎週月曜日に鶴崎踊の基本形の指導を行っている。

- ・本場鶴崎踊大会に各校区から踊り隊が出演しており、本番に向けて練習している。

【 会議で出された意見等 】

7校区のすべての小学校で鶴崎踊を教えるように環境整備していただきたい。



（事業名）史実の顕彰による観光連携の強化

- ・歴史を活かした観光交流の推進を行う
- ・新たな観光施設を整備する

【 事業の取組状況 】

（行政）「大分市まち歩きガイドブック」において、毛利空桑記念館等を観光スポットに含めるなど、歴史・史跡を活かした観光周遊ルート「鶴崎歴史の道」を作成した。

（地域）鶴崎、佐賀関、野津原のボランティアガイドグループが連携し、佐賀関から肥後街道を旅した勝海舟と坂本龍馬の足跡をたどるガイドマップを作成した。

(事業名) 地域イベントの拡大事業

外部から新たに地域イベントをプロデュースできる方を招いて地域イベント（お祭りなど）を活性化させる

【 事業の取組状況 】

(地域) 「鶴崎商工春祭り」や「清正公二十三夜祭歩行者天国」、「別保商工夏まつり」、「九六位山キャンプのタベ」が開催され、多くの参加者、来場者で賑わっている。

【 会議で出された意見等 】

- ・二十三夜祭において、法心寺から国道197号に繋がる道がさびしい。
- ・九六位山では今年初めてサマーフェスティバルと銘打って、ライブを行った。

(事業名) 鶴崎地域の農業の振興

地域の名産品であるニラ、水耕セリ、ミツバ、大葉の生産振興につなげる

【 事業の取組状況 】

(行政) 認定農業者等の担い手が行う栽培施設の整備などについて引き続き支援を行っていく。

【 会議で出された意見等 】

小規模農家が相当数いるので、市民農園を拡大し、技術を持っている方が市民農家の方たちとタイアップして活性化していくことが今後求められる。

【 提言2：豊かな川の恵みをみつめなおす 】

(事業名) 大野川、乙津川の河川敷を利用したスポーツ施設整備とマラソン大会の実施

スポーツで鶴崎を盛り上げ、地域の活性化へつなげる

【 事業の取組状況 】

(行政) 乙津川水辺の楽校内の園路をジョギングコースとして活用できるよう、100mごとに表示を入れた。

(地域) 毎年3月に「おおのがわ Smile RUN」を開催しており、多くの方が参加している。

【 会議で出された意見等 】

「おおのがわ Smile RUN」で、ランナーが一番力をもらえるのは沿道の方の応援なので、応援者を増やしていきたい。

(事業名) 川を活かしたまちづくり事業

- ・豊かな川がもたらす水の恩恵を子どもたちの郷土愛を育む教育へと生かす
- ・大野川沿いの幹線道路を整備する
- ・川がもたらす資源を守り、育んで有効活用する

【 事業の取組状況 】

(地域) 明治の「うーたの会」による里山や多様な生物の再生・保全活動、松岡のぼたる増加活動、川添の大野川ハゼ釣り大会を実施している。



【 提言3：鶴崎駅や鶴崎市民行政センター周辺を核とした街のにぎわいづくり 】

（事業名）鶴崎駅周辺の整備

- ・鶴崎駅周辺のバスの利便性を向上させる
- ・地域を循環するバス路線があれば街の活性化につながる
- ・鶴崎駅周辺にカフェやレストランができればにぎやかになる

【 事業の取組状況 】

（行政）平成30年度に鶴崎駅と森町、常行、支所を結ぶ循環バスの実証運行（30日間）を実施したが、1便当たりの利用者数は2名弱であった。

【 会議で出された意見等 】

駅前のにぎわい創出にむけて、有志が集まって意見交換を行っている。

（事業名）鶴崎市民行政センター周辺の整備

- ・防災機能を持った総合コミュニティセンターとして、鶴崎公民館を整備する
- ・公民館の機能充実、利用者の利便性の確保を図るための鶴崎公園の整備

【 事業の取組状況 】

（行政）鶴崎公民館は、エスペランサ・コレジオや老人いこいの家を集約するとともに、防災用備蓄庫の設置など防災機能の強化を図るためリノベーションを行う。また、鶴崎公民館整備に併せて、鶴崎公園の再整備に向けた検討を進める。

【 提言4：将来住みたくなる街づくりに向けた取組を推進 】

（事業名）地域全体の防災力の強化

- ・地域のインフラを強化して防災面を強化する
- ・地域住民の防災意識を向上させる

【 事業の取組状況 】

（行政）地域からの要望に応じて、ビル所有者の協力を得て津波避難ビルや津波避難場所の指定を進めており、指定したビル等はHPで公表している。また、自主防災組織が定めた避難路のマップ作成に対する助成や看板設置を要望に応じて行っている。

（地域）多くの自治会で防災訓練を実施している。

【 会議で出された意見等 】

消防団第2方面隊は高田橋の河川敷で訓練しているが、20数台のポンプを据えるのにスペースが狭いため、南側を整備して訓練場所として使えるようにしていただきたい。

～お知らせ～

□ 「ふれあい市長室」【鶴崎地域】開催について

日時：令和2年1月22日（水）19時から

場所：鶴崎市民行政センター 2階大会議室

フォローアップ会議の内容を報告する「市民報告会」を兼ねた「ふれあい市長室」を開催し、地域住民からビジョンや市政全般に対する意見、提言を幅広く伺い、事業実施に向けた相互理解を深め、市民と行政の一体感を醸成します。

□ 「シンポジウム」開催について

日時：11月23日（土）13時30分から

場所：コンパルホール 3階 多目的ホール

地域まちづくりビジョンを広く市民と共有し、まちづくりの機運の醸成を図るため、子育て世代などの若い世代にも参加を呼び掛け、様々な世代が参加するシンポジウムを開催します。